

潮騒通信「どっこい生きてます！」

匿名性の持つ意味とは～TBS「報道特集」放送に思う

放送日程が急きょ変更になりましたが、10月13日（土曜日）夕方のTBSテレビ「報道特集」で、潮騒JTCが取り上げられました。卒寮（円満退寮）した回復者が社会復帰して職場で頑張っている様子や、入寮者の何人かが素顔を出して取材に応じ、メッセージに励んでいる姿に深く感動した、など反響がありました。真夏に足繁く潮騒に通ってくれたTBSの取材担当者には、とても感謝しています。潮騒JTCは各メディアの取材に対して、入寮者のプライバシーに配慮した上で、その趣旨に納得できるなら基本的にオープンな姿勢で臨んでいます。

ただ、世間体を重んじるこの国では、村八分の言葉通り“異端視”をひどく嫌い、恐れます。ですから依存症者には身分や立場、職業に囚われず、誰でも安心して回復プログラムに取り組める環境が大事です。既に当事者や家族は社会から孤立して深く傷つき、経済的にも困窮しています。「犯罪者」という色メガネの視線から、もはや世間は「敵」なのです。そのためにダルクは、入寮者にとって安全安心な居場所であることが求められます。だからこそ施設運営ではプライバシーに配慮し、世間の感覚からすれば違和感があるとしても、自助グループ（NA）の伝統に習って匿名性を体現する“あだ名”のような「アノニマスネーム」を使っているのです。

これは意見が分かれるところかもしれませんが、私は匿名性を嫌う日本の風土も無視できないと考えています。今流行りの自己責任とは異なりますが、その昔の合戦で武士は互いに名前を名乗って勝負したように、今もって匿名＝卑怯というマイナスイメージが日本人の皮膚感覚にあるように思います。匿名での批判や中傷が大きな問題となっているネット社会が隆盛な時代だけに、「自分が正しいと信じるなら堂々と顔を出して本名を名乗るべき」とする主張にもうなづけます。

でも、依存症者とその家族は十分すぎるほど傷付いています。被害者意識も相当なものです。ダルクや潮騒JTCは、安心して「弱音を吐ける」場でなければならず、そのためにも匿名性の基本原則は譲れません。でも、その一方で、こちらから開いていかない限り、世間は胸襟を開いてくれないという強い思いもあります。行き場がないとして長く施設にとどまり、初発の志や謙虚さを忘れ、変に“施設慣れ”“施設ずれ”するのも問題です。匿名性にこだわる余り、いつの間にか施設生活に甘えて社会復帰への意志を弱くしているとしたら、是正しなくてははいけません。誤解を恐れずに言うなら、家族などへの影響を言い訳にして当事者がいつまでも匿名性にこだわっている限り、勇気を持って社会に出ていくことは難しい、と私は実感しています。それに自分が気にしているほど、世間は自分を気にしていない、というのも私の本音です。腹を括って「もはや失うものはない」と開き直るのも、依存症者に必要な回復と成長のステップかもしれません。（施設長 栗原 豊）

SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2012年

10月号 一部100円

Contents

- P1 匿名性の持つ意味は
- P2 「回復の祭典」に参加
- P3 ネットワーク会議発足
- P4 民生児童委員が来所
- P5 潮騒田んぼ新米収穫
- P6 我が心のメッセージ
- P7 近藤氏インタビュー6
- P8 受刑者からの便り
- P9 入寮者しおさい俳壇1
- P10 入寮者しおさい俳壇2
- P11 しおさい文芸コーナー
- P12 行事予定&献金献品



可憐な花が道行く人を和ませている潮騒フラワーロード

雨の中250人が新宿をパレード

～今年も潮騒が「回復の祭典」に参加～

薬物、アルコール、ギャンブル等各種依存症やうつ病、感情障害など“心の病”を抱えた人たちが年に一度、東京に集い合って「回復」を祝う、第3回「リカバリーパレード・回復の祭典」が9月23日、東京都新宿区で行われ、各地から約250人が参加しました。

この日は朝から雨が降り続くあいにくの天気でしたが、集合会場の新宿中央公園には、潮騒ジョブトレーニングセンターの仲間たちをはじめ、千葉県の館山ダルクや全日本断酒連盟など各団体、各種依存症や心の病などから回復した個人などが集まり、それぞれ思い思いの表現スタイルでパレードしました。

■「十分回復をアピールできた」と感想

パレードは午後1時前に同公園を出発。隊列の後半部に位置した潮騒の仲間たちは、施設旗を先頭に雨合羽姿や傘を手にして新宿中心部の街並みを行進しました。仲間たちを含むパレード隊は「飲酒運転撲滅」やパチンコなどのギャンブル依存症の危険などを訴えたほか、「館山ダルク」によるエイサーや市民有志によるベリーダンスも披露され、雨の中のパレードは沿道の人たちの注目を集めました。

パレードに参加した「館山ダルク」のメンバーは「天気は全然気にならない」と、悪天候をものともしない姿勢を見せ「解放感がある場所で(エイサーが)できた」と満足そうな表情でした。また、リカバリーパレード実行委員会広報部の高橋忠士さんは、パレードの感想を「雨の中疲れしました。けど断酒会の人と知り合えて良かった」と語ってくれました。

一方、7種類の「心の病」(共依存症、アダルトチルドレン、恋愛依存症、回避依存症、うつ病、買い物依存症、性同一性障害)を持つ神奈川県川崎市の30代女

性は「雨だろうが何だろうが十分回復をアピールできたと思う」と話した上で、「(心の病が)一つだけの人もあるけど、(症状が)複合している人も多い」と複合化する心の病の現状を強調、「精神科と12ステップの回復が必要」と語りました。

■前日にはヒロシマで初の地方開催も

このほか「家族がギャンブル依存症」という女性は、「依存症を“お手伝い”してしまいう自分も、ある意味“病氣”だと自覚し、自分も回復しようと思った」と参加のきっかけを力説。自らも共依存への自覚を深めたことで「自分は生きやすくなったことを感じた。(生きやすくなったことを)感じているのを形にした」と話してくれました。

前日には初の地方開催となった「第1回リカバリー・パレード回復の祭典in ヒロシマ」が取り组まれました。約100人が参加し、広島市内の中心街を華やかにパレードしたそうです。東京のパレードと同じく、参加者は依存症者や精神障害者、生きづらさを抱えた人たちで、この日の午後にはフォーラムを開いた広島ダルクの関係者らが先頭を歩き、存在感を示したということです。「翼をください」「上を向いて歩こう」「故郷」などを歌いながら約1時間のパレードで、参加者の皆さんは思い出深い貴重な体験となったようです。(サッキー)



就労支援地域ネットワーク会議が発足

=潮騒JTCファイザープロジェクトを下支え=

潮騒ジョブトレーニングセンターの活動を地域の市民有志が支援する「潮騒JTC就労支援地域ネットワーク会議」の設立会議が10月13日、鹿嶋市宮中の潮騒デイケアセンターで開かれました。冒頭、栗原施設長が挨拶し、「ダルクは箸にも棒にもかからなかったヤク中、アル中の私を生まれ変わらせてくれた恩人ともいうべき施設」と、ダルクでの更生の歩みについて触れ、過去7回の服役と通算20年間の刑務所暮らしから一転、ダルクの回復プログラムのおかげで60歳にして回復の歩みをスタートさせ、薬物やアルコールに頼らないで生きられる「新しい人生」を手にしたことを語りました。

□ □ □

栗原施設長によれば、現在は80人を超える大所帯となった潮騒JTCですが、当初からボランティアで「仕事」を請け負うプログラムを組んだものの、当時は就労プログラムなど無く、発注側の事業主や市民が依存症についての知識も理解もなかったことから、スリップ（薬物の再使用、再度の飲酒）する入寮者が続出。リハビリ施設とは名ばかりの現実

に栗原施設長はとても悩み抜いたそうです。このため潮騒JTCでは、依存症者向けの職業訓練と就労支援の新たなプログラム開発と、これを活かせる地域の受け皿作りや支援者のネットワーク作りが不可欠と考えていたところ、幸運にも応募したファイザー助成事業に選ばれて、今年1年ファイザープロジェクトに取り組んでいます。その年間計画の中に潮騒独自の就労支援地域ネットワーク会議の設置を盛り込み、支援者の協力により、この日のネットワーク会議の発足に至ったものです。

会議では入寮者の体験発表があり、古参入寮者のキクさんが「仕事が長続きしなかった。ダルクから（一般社会に）帰っても身内から見放されていたので、自分でなんとかするしかない。勤めようとしたけど、雇ってくれるようなところは無かった」と話し、ダルクから社会に出ることとスリップでダルクに戻ることの繰り返しだった過去を明かしました。しかし、ファイザーの就労プログラムに参加するよ



うになってからは「働くことの喜びを知った」と述べ、「ファイザープロジェクトにはできる限り参加したい」と前向きな考えを示しました。

同じく入寮者のチョウさんは「海上自衛隊勤務の頃にアルコールを覚えた」のをきっかけに酒におぼれるようになり、跡を継いだ実家の商売をつぶし、転職したパチンコ店でギャンブルにのめり込むなど「完璧な依存症」になったと言います。3年前に入院した精神科病院で目の手術を受けたのちに紹介で潮騒に移り、2年5カ月経った現在では「施設の『縁の下』の力持ち」として働いている」と回復の歩みを語りながら、社会復帰に向けて「いざアパートを探そうにも『依存症者』ということで借りれる物件が無い。住み込みの仕事もダメ」と、社会の壁の厚さに言及しました。

□ □ □

この後、潮騒サポートメンバーから、実施中のファイザープロジェクトや栗原施設長の将来構想について説明があり、「生活保護受給者から納税者へ」を掲げて農業を主体にした潮騒の就労支援プロジェクトへの下支えを訴えとともに、これまでの取り組みの成果や改善点も示されました。

協力者メンバーによる生活保護制度に関する話の後に「ネットワーク会議」の要項が採択され、同会議の会長に支援者の増古四郎さんが選出されるなどの役員人事が決まりました。会長に選ばれた増古さんは、同プログラムで実施された農地の開墾について触れ、作業にたずさわる入所者たちが「達成感を感じていた」と感想を話していました。（勝）

世田谷区喜多見地区民生・児童委員協議会が研修で来所

東京世田谷区喜多見地区の民生委員・児童委員協議会の一行20人がこのほど、鹿嶋市の潮騒ジョブトレーニングセンターに視察研修で来所し、映像や栗原施設長との懇談を通して薬物・アルコール・ギャンブル等依存症について理解を深め、活発な意見交換がありました。

初めに潮騒の活動を紹介する映像の視聴で来所された皆さんに理解を深めてもらい、栗原施設長が自身の生い立ちやダルクにつながるまでの歩みを話しました。この中で栗原施設長は「依存症は回復できる病気であること」を自身の体験を通して強調し、今度は苦しんでいる仲間を助けたいと自ら施設を立ち上げて現在に至り、「ヤクザだった過去



のマイナス人生が今はいきている」「かつて何度も死を考えたのが、今は生きることの素晴らしさを感じている」「施設運営を通し、仲間の中で回復できていることの喜びを実感している」など現在の心境

を素直に披歴して、皆さんの共感を得ていました。潮騒独自のファイザープロジェクトについても触れ、「施設につながる入り口は整備されてきたが、社会復帰するための仕組みや受け皿が課題」と説明、このため独自に職業訓練と就労支援のプログラム開発を進めており、今年は「試行錯誤しながら農業に取り組み、コメ作りでは予想を超える豊作に恵まれた」と、その成果を説明しました。

民生委員・児童委員の皆さんからは「女性の入寮者は？ 入寮者の平均年齢は？」「施設の支援者はいるのか」「アルコールと覚せい剤の人では対応に違いがあるか」「どれだけ重篤な症状だと施設に入寮できるのか」

など幅広い意見が出され、当初予定していた下津の潮騒本部（ナイトケア施設）の見学時間が設けられませんでした。が、ふだん目にしない依存症リハビリ施設について理解を深めた様子でした。（イチ）

●TV撮影が入り、緊張した秋元病院メッセー

潮騒に入寮して早いもので5カ月がとうとうとしています。施設の生活にも随分と慣れてきて、仲間とともに毎日規則正しい生活をしています。先日、千葉県鎌ヶ谷市の秋元病院へのメッセーがありました。今回はいつもとは違って、とても緊張しました。テレビ取材が入ると知らされていたからです。何を話したらいいのか、何を伝えればいいのか、車が病院に近づくにつれて頭がパニック状態になっていくのが分かりました。

病院に着いた頃には体や手足が震え、緊張が増すばかりでした。テレビ局のカメラ撮影があり、会場もいつもよりも広く、依存症治療の患者さんも30人ぐらい集まっていました。準備が整った、後は自分たちが会場入りするだけでした。私は大きく深呼吸して会場に入り、会場正面のテーブルに沿って順番に並べられた椅子に、この日のメッセー仲間と一緒に腰を下ろし、まずペットボトルの水を一口飲みました。早くもカメラは回っています。まず栗原施設長があいさつし、5人の仲間たちが自己紹介をしながら、メッセーに入りました。1人13分の持ち時間で話すように指示され、昔の苦しかった頃の経験を思い出して涙ぐむ仲間もいました。

やがて自分の順番となりましたが、頭が真っ白になり、自分が何を言っているのか分からない状態でした。アルコール依存症は自分だけで、しかも会場の参加者もアルコールに問題を抱えた患者さんばかりのようだったので手ごたえを感じ、それなりに伝わったように思います。見渡すとハンカチで涙をぬぐう人や、何度もうなづく姿が目にとまりました。結局、与えられた時間分は話できなかったけど、自分では精一杯やれて良かったと思います。（ツカ）

潮騒田んぼの新米が豊作に～ヒコさん苦勞を語る

今年、仕事プログラムから発展した製菓会社の補助金事業（潮騒ファイザープロジェクト）で、栗原施設長の念願だった畑作と稲作農業がスタートしました。畑作は今のところサツマイモと大根です。私は稲作の責任者を任されましたが、正直なところ「お米を作れ！」と言われても、潮騒には田圃（たんぼ）や農業機械はもちろん、技術もノウハウも何一つありません。施設長の知り合いの人から田んぼと機械を借り受けることが出来、なんとか農作業に取りかかることが出来ました。最初は25アールでお米を作る予定でしたが、そのうちに追加で25アールの田んぼも耕作することになりました。

その田んぼは7年間もの休耕田でした。畔もなく田圃の形だけでした。重機を入れて田作りを始めたのは5月の初めで、他の農家の人は田植えの最中でした。仲間と力を合わせ田圃が出来、代かきが終わったのは5月15日でした。18日は天気も良く田植え日和です。仲間と一緒に昔ながらの「手植え」の田植えをしました。田植えは大変にぎやかでした。なんとか田植えは21日に終了し、ほっとしました。気候に恵まれ稲もぐんぐん成長し稲刈りごろには最初に植えた田んぼの苗と変わらないほどになりました。

そして9月に入ると待望の稲刈りの時期がやってきました。あちこちでコンバインが稲を刈っています。けれども潮騒ジョブの稲刈りは一番最後でした。最初に植えた苗は刈取りの適期です。雨や風で稲が倒伏しないか心配でしたが、好天が続いた日にコンバインが来てくれて3時間ほどで50アールの稲刈りが終わりました。農作物は天候に左右される作物です。昔おじいさんが百姓は博打（ばくち）と同じで、その時勝負だといっていました。私はお米を作ってその通りだと思いました。

今年は天候にも恵まれ、自分でも驚くほど収穫が出来ました。施設長からお米の名前まで付けてもらい、光栄に思っています。仕事は体が資本です。無理をせず、来年も豊作であるように神様にお願いする次第です。

（ヒコ）



豊作だった稲刈り前の潮騒田んぼ

=10月誕生日の仲間たち=



左からヤマ（退寮）、マサ、ミノルの皆さん

Happy Birthday

●映画プログラムに参加しての感想

映画なんて何年振りだろう。久しぶりに見ました。旅がテーマみたいな映画で、僕もあんな風に旅をしたいなあと思いました。いろいろな人達との出逢いがいいな。もうちょっと若いころ、僕はアクション映画とか戦争映画を見るのが好きでした。好んで見るのはそういうものばかりでしたが、今回は何故か「あなたへ」という映画でした。アクションものも上映されていたのですが、これを選びました。ちよつとした心の変化なのでしょうか、僕にもよく分からないんですが、あまり迷わずにこれに決めました。人間ドラマ的な作品を映画館でみたのは、今回が初めてだった気がします。最初から最後まで特別盛り上がるでもなく、盛り下がるでもなく、ちよつと不思議な気持ちで時間が流れました。ああいうのも楽しいんだなあと思いました。

（ガク）

「みんな聞いてくれ！」=我が心のメッセージ…

◆季節外れですが、海プログラムの感想です◆

潮騒JTC恒例の「海のパログラム」が8月17日にあり、鹿嶋市平井海岸に入寮者30人ほどでバス&ハイエースの2台で行きました。天候は晴れ、まさに海水浴日和で青いシートを敷き、ビーチパラソルを立て、海で泳ぐ人、波と戯れる人、足で貝を探る人、シートで寝る人、様々でした。

そのうち砂に土俵を作り、勇者を集め勝ち抜き戦で相撲大会が始まり、ジャンケンで対戦が決まり、張ったり投げたり押し出したりと、迫力満点で皆勇者ばかりでした。私も一回戦は勝利し、二回戦で敗れてしまいました。ボランティアに参加して体力がある人、体格の良い人、優勝したシモ(タツヤ)さん

は元柔道部だといっていました。さすがでした。

昼におにぎりとお茶を自然の中で食べた味は最高でした。午後はスイカ割りが始まり、目隠しをして右回り・左回りを5回ずつ、そして目的のスイカを目指して悪戦苦闘の様は、自分が酒を飲んでいて時代とよく似ていたと思ったのは私だけでしょうか。その様子をTBSの取材が入り、カメラが回っている中での潮騒の今日一日の様子でした。私の故郷は三陸海岸で、夏はよく家族で海水浴に出かけていたころが懐かしく思い出されました。「故郷は遠くにありて思うもの。故郷はありがたきかな」を実感しました。(コバ)

※「ふるさととは遠きにありて思ふもの／そして悲しくうたふもの…」(室生犀星「小景異情」)と、「ふるさとの山に向ひて言ふことなし／ふるさとの山はありがたきかな」(石川啄木)ですね。掲載が遅れてしまいました。コバさん、すいませんでした。(み)

◆4年ぶりの山梨ダルクで新たな感慨を得ました◆

今回、自分は山梨ダルクに研修を兼ねて10月11、12の両日、一泊二日で行かせてもらいました。研修地の山梨ダルクは昔とあまり変わらず、懐かしい気持ちとホッとする気持ちが交錯しました。というのも、自分は4年前に、山梨ダルクに入寮させてもらっていた経験があったからです。その時は約5カ月という短い間でしたが、今も楽しい思い出でいっぱいです。当時の退寮理由は逃走(笑)でした。そんな自分勝手な行動で、当時は大変に迷惑を掛けてしまいました。にもかかわらず今回、温かく接してくれる山梨ダルクの皆さんには感謝の言葉しかありません。

あの時、ステップもままならずに山梨ダルクを逃げ出して、まるで後ろ足で砂をかけるように施設を後にした自分でしたが、つぶれるのは時間の問題でした。程なくして、お定まりのようにアルコールとクスリに手を出し、おぼれる生活が続きました。でも、不思議な運命の糸に導かれるように潮騒JTCにつながり、今では過去の狂っていた時代がうそのように、回復途上の道を歩んでいます。プログラムの実践はまだまだ

ですが、施設の手伝いをする事で自分自身と向き合うことができ、比較的落ち着いた生活を送っています。

自分のような者でも、今はアルコールとクスリも止めることができているのは奇跡であり、回復プログラムと仲間たちのおかげです。潮騒での充実した日常は未熟だった自分を少しずつ成長させ、新たな生きがいを実感しています。以前は持てなかった“心の平安”を意識するようになりました。

自分は青臭い「若造」なだけに、今の山梨ダルク研修では4年前に一緒に生活していた仲間たちがスタッフとして自立していて、とても励みになりました。4年前に迷惑を掛けた施設長のヒロシさんは、今では自分の大事なスポンサーです。

ヒロシさん。スポンサーになっていただき、ありがとうございます。新しく知り合えた仲間の皆さん、これからもどうかヨロシクお願いします。自分にとって山梨ダルクは、子どもで居られる貴重な居場所なんだと分かりました。また、行かせてもらいます。来年はソフトボールの交流試合をやりましょう。(マコ)



近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL6

生活保護はあくまで本人にかけられるもの。ダルクはその一部をかじっているにすぎない

近藤 一般的に言えば、社会や国家が発展していく原動力の一つとして、みんなが権利意識を持つことはとても大事なことだ。その半面、落とし穴もある。僕ら依存症の人間には単純に「権利を行使して当たり前だ！」ってなることが怖い。回復の方向を誤らせる。それこそ依存症を正当化しかねない。回復にとって大事な謙虚さを失わせる。

—それを今、社会の関心を集める生活保護の問題と絡めるとどうなりますか。

近藤 僕は気になっているんだが、今じゃどのダルクも生活保護受給が当たり前の風潮になっている。すると、中には「生活保護をかけてやったんだから、本人にかけたんだから、(家族会に)その額の半分以上くらい寄付したらどうなんだ」と、堂々と言っているケースを耳にする。冗談だとしても、そんなことを無責任に口にすべきじゃない。

生活保護の人にとっては命とりになりかねない。そんなことがまかり通ったら制度自体がおかしくなる。生活保護というのは、例えば本人が病気によって働けなくなって生活に困窮しているから(憲法にうたわれた)最低生活を保障するのが趣旨でしょう。だから医療保護、住宅費などを出しましょう、と。その一部をダルクはかじっているにすぎない。居宅費としてな。でもそれ以外は、本人のために使っている。施設側が1日千円とか2千円と決めて、タバコを吸ったり、コーラ飲んだりするわけだから。

それはあくまで本人への支給だけど、それを家族会に献金しろといったら、献金するお金があったら生活保護を減らされる。普通は、それを余裕と見ち

やうから。それを堂々と主張することがおかしい。ほかのダルクにも影響する。本人の回復には家族の理解や協力は大事だとしても、国は家族(親)に生活保護をかけているわけではない。あくまで本人(正確には世帯)にかけている。

それを家族に向かって「本人に俺たち(ダルク)が生活保護をかけてやったんだから、まだ(生活に余裕があって)楽だろう。俺らダルクの人間の方が苦しんでいるんだから、その分を献金しろ!」と。そういう理屈は成り立たないし、大きな間違い。それを聞いて、これはまずいと思った。

—一気にになりますね。

近藤 あれやっちゃうと、もう最悪。生活保護制度が根底から崩れちゃうよ。

—どうなんでしょう? 根本にあるのは、いつの間にかダルクの運営が目的化してしまっただけで、ダルクの在り方が変質しつつあるんじゃないでしょうか。ダルクを維持するために生活保護が必要になるという倒錯みたいな?

近藤 ダルクも多様化して、いろんなやつが出てきている。だけど、基本というか原則は崩しちゃいけない。俺達がやっているのは、あくまで自分たちのための当事者主義の活動だけにな。

—スタッフの育成もそうですが、ダルクの原点がおろそかになっている現実はありませんか。近藤さんが最初におっしゃった謙虚さの部分だと思うんですが。いろいろなダルクが出てきたのはいいとして、いつの間にか、組織をどういうふうに維持するか、それが大きな課題になってきていますかね?

近藤 これからそうなっていくだろうな。

—それを社会復帰の面と絡めて、近藤さんはどう思われますか?

近藤 まあ、組織を持たなければ、ある意味では自由にできるんじゃないですか。しかし組織を持ったら自由にはできない。そんなにいい加減なことではできなくなる。で、まあダルクに言いたいところは、組織化しないほうがいい、ということ。それは僕の一貫した持論なんだ。

(次号に続く)



受刑者のみなさんからの手紙～「潮騒通信」を読んで～**■ファイザーPの農作業にすごく興味がある**

薬物を売ったり、自分で使ったりしてきたことで、結果的に周りの人を苦しめてきた分、自分も悩み苦しみたいとダメなんでしょうね。でも、刑務所への出入りを繰り返す、負の連鎖から私も解放されたいのです。今の現実が逃避したいだけなのかもしれませんが、栗原さんたちがファイザー製薬から支援を受けて取り組んでいる農作業に、すごく興味があります。汗を流して働いていいですよ。この刑務所にも農場があるらしく希望はしているんですけど、私の場合、社会での営みや過去の服役で行状がよくなかったんで、まず無理みたいです(笑)。だからと言ってクサらず、今は与えられたことを受け入れて、精一杯やるのが全てだと思っています。

(北海道 I K)

■潮騒の7周年フォーラムの成功を確信します

(中略) 懲役の身ですので、急に人がいなくなってしまうアクシデントが多々あります。作業の方が、自分が考えているようになかなか進みませんが、任された以上は半端なままにすることだけはできません。自分の気持ちを引き継ぐ責任者のためにも、先が見えるようにしなくてはならないという使命感からか、焦るばかりですが、こんな時だからこそ気をつけたいと思っています。1年間の活動の集大成を発表する第3回(開設7周年)潮騒フォーラムも間もなくですね。潮騒にしかできない素晴らしいフォーラムになると確信します。北海道の地において潮騒の成長する姿を見てきた私ですので、そのことがはっきりと分かります。入寮者の皆さん、どうか頑張ってください。

(北海道 O K)

■報奨金や生活保護受給の難しさに疑問が

(中略) 潮騒通信9月号で、TBSの「報道特集」の取材に関連して、生活保護について書いてありましたが、刑務所で働いて1カ月もらえる報奨金も最初は700円と少なく、頑張っても同じ仕事をしていれば少しずつ上がるのですが、違うところに行けば、また最初からになり、1年務めても1万円あればいい方なのが刑務所の現状でしょう。これでは家がなくて働く所もない人間はどうしたら良いか、教えてもらいたいと思います。自分がもし栗原さんの施設にいたら、テレビを通じてそのことを言いたかったです。刑務所で働いたお金も帰りの電車賃で終わってしまい、家のない人はアパートも借りられない

のが、社会に帰ってからの厳しい現実ではないでしょうか。自分も前回、出所して家に帰り仕事を見つけようとしたのですが、体が悪く面接でダメになり、仕方なく父の友人の尽力でなんとか生活保護をもらえるようになりました。市役所に行っても、すぐやってくれればいいのですが、いろいろ難しい問題もあるのでスムーズにはいかないのが現実みたいです。(北海道 A M)

■空が青いという感動に救われている自分が

…空が青い、その在り様に大いに感動し、また私の精神が正気な方向に向かっているのを、その空に気づかせてもらった、というより教えてもらったのです。栗原施設長の言葉のように、神は宇宙から小さな石ころまで宿っていることを実感させられています。私に掛け値なしに心の平安、健全というものを教えてくれたあの青い空は、ある意味で神といえる存在かもしれません。

縁あって栗原施設長とのやりとりも1年が過ぎた今、これまでそうした心持ちなど経験したことがなかったのに、空の青さに感動すること自体が奇跡です。そんな自分自身に驚いています。歯の浮くような滑稽なものと軽んじ、ばかにしてきた感慨ですが、こういう気持ちになったことで、いかにこれまでの自分が心の貧しい人間だったのか、虚勢を張ってばかりで物事に素直に感動できない悲しい存在だったのか、を思い知らされています。今の自分は、空が青いという感動に救われているのです。生活の雑事に追われて忘れがちなこのような気持ちを大切にできる自分でありたいと思います。

(中略) 恥ずかしながら過去の私ときたら、数えきれない失敗を繰り返し、ひたすら人様に迷惑を掛けてきた人生でしたが、慣れとは恐ろしいもので、私の場合は失敗を教訓とするのではなく、そうした自分をごく当然のようにとらえてきたのです。それだけ私が、自分自身のことを分かっているのだと思います。その私が自己改善を口にしてきましたが、まだまだ自分を知る段階にも至っていないことを知りました。確かに12ステップを正しく理解するには、私ひとりでは無理なのだと思います。未だ服役中の身で刑罰も全うしていないのに、先々のことをあれこれと思い悩むのは私の悪い癖なのかもしれません。現在の私の一番の義務は、所内での規律規則を順守し、強制労働に従事することです。初心忘れるべからずで、頑張ります。(北海道 K T)

潮騒俳壇「一句ひねろう」～入寮者句会10月例会作品より

逢いたくて萩の手紙を出しに行く

(シマ)

「萩の手紙」は萩の絵のある便箋に書いた手紙であろうか、萩の花は秋の七草の一つでもあり、紅紫色の可憐な花で宮城野萩、山萩などが趣きがある。女性が恋人に贈る手紙の様で艶冶を秘めてロマンのある一句です。

空澄みて思うは家族こ鹿島

(トコ)

作者の故郷は何所か知れませんが、誰でも故郷や家族と遠く離れ住むと郷も家族も恋しくなる、それぞれの境遇において思いは違っても秋の空を眺めながら切実な実感の句です。「秋深み思うは家族こ鹿島」とすればもっと切哀の句になります

渡り鳥自由に飛べ嬉しそふ

(コジ)

渡り鳥や高く舞う鳶などを見ているとさも嬉しく楽しそうでもあります、実際は命掛けの旅や餌を探すためですが、楽しく見えるのが詩心と云うべきものがあります。また自分の思いに詠み

「渡り鳥われも行きたき郷の空」か「渡り鳥われも飛びたき海の空」など実感の句になります。

淋しさを今日もこらえて秋の海

(トミ)

海は四季に思いも異なるが、秋の海は晴れて広々と青くても人も少なく淋しい思いがする、ことに家族などと離れて暮らし秋の海などに散歩すると余計に淋しいが、それを耐えている、今日も堪える、に切実な思いの句です。

※10月から本格的に潮騒JTCの入寮者を対象にした俳句会が始まりました。選評は本通信しおさい文芸コーナー俳句選者の桐本岩見先生です。入寮者の皆さん、ふるってご参加ください。一般参加も歓迎です。

秋刀魚焼く匂いよろしき夕餉かな

(コタロウ)

今年は秋刀魚の水揚げが少し遅いようですが、それでも秋刀魚は庶民の味でもあり大根おろしに焼きたては秋の味であり美味い。その秋刀魚を焼きながらの夕餉、その匂いもまた馳走の句。

突然の風の冷たさ秋を知る

(トム)

「季節知る」を秋に変えましたが、これで夏も終りに少し冷たい風が吹き秋を知る実感の句になります、万葉集にも、「秋きぬと目にはさやかに見えねども音のかそけきこの夕べかも」があり古人も又風に秋や冬、春を感じたのです。この句もしみじみと秋を知る思いです。

行く秋の古里にをり雑木山

(アベ)

「もみじかな」を雑木山にしてみました、俳句は出来れば季語を一つにして詠むを基本とします、それは、句は短い字数なので同じ様なことは云わず他の言葉を用いる意味です。

行く秋は秋の終りの意、雑木山の紅葉などを懐かしみ古里に過すしみじみとした句です。

言葉なくつきせぬ想ひひがな花

(?)

彼岸花は田の畦などに咲く赤い花で曼珠沙華とも云い、あまり好まれる花でもないが、彼岸の頃の代表の花でもある。その赤い花を見ながら何か尽きぬ思いにふける、それは恋か人生かも。「彼岸花もだにも思ひ燃えたす」が私にあり懐かしい。



赤とんぼ北浦の空夕日かな

(アベ)

赤とんぼは秋茜とも云い、夕日に飛ぶ様は何か切ないが田舎の景でもあり、子供の日の懐かしい思い出もある。いま北浦の夕べを散歩でもしているのか、簡素ながらも景の見える句で良いし、田舎の佳さを思う句でもあります。

運動会孫の走りに涙かな

(オノ)

運動会や音楽発表会なども幼稚園か小学校ぐらいまでは親も祖父などもはらはらして観戦出来る。ことに孫などが先頭になり懸命に走るときなど涙がでるほどに感動する。何時の時代でも孫は可愛いし、それが親や老いの思い、ほのぼとした句です。

西瓜割りいまは懐かし子の日かな

(マコト)

西瓜割りは今でも夏の浜や山のキャンプなどでの遊びの一つですが、田舎の夏の子供の日もまた懐かしい、今はゲームの遊びが多いが、西瓜割りの後に食べるのも美味しい、実感の句です。

天高し夫婦を誓ふ厳島

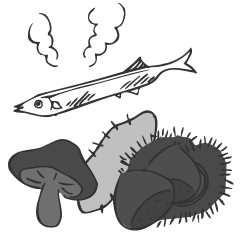
(ユタカ)

大河ドラマの平清盛も終りに近いが、句の厳島神社は清盛の創建で納経など国宝もある。その厳島神社での結婚式か、あるいは詣でて改めて夫婦の絆を誓ったのか。秋空も晴れて天高き日の厳かな句です。尚、祭神は天照大神、須佐之男神など。

白い花ひょうたんの実のかたちでき

(ヒロシ)

瓢箪は昔は水筒代わりでもあり、また形が面白いので飾りにもなり、豊臣秀吉の軍纏いでもある、白い花が咲きその付け根に細いながらも瓢箪の形が出来た、よく見た面白い句です。



赤ちゃんのおしりのような桃を食う

(オトウ)

白桃といわれる桃は色も薄い桃色だし、お尻の割れも可愛くて如何にも赤子のお尻の様です。それを食うのは少し残酷な思いもありますが、これも詩心の句です。私にも、「ふくらみの見えし袋の早桃かな」があり懐かしい。

小黄色夕日と稲穂北浦湖

(オトウ)

北浦に沿う広田は今稲が稔り夕日に黄金色に耀く景の句で、利根川や霞ヶ浦に広がる田も今年は豊の秋です。「北浦や稲穂夕日も黄金色」とすれば語呂もよくリズムのある句になります。俳句は意味もリズムも必要です。

吹き抜けの仁王門より秋の声

(オトウ)

秋の声は風の音人の声などもふくめてを云い、古人の感覚でもあり俳句の妙でもあります。寺や神社の門に立つ阿吽の像や武人の像を彷彿しますが、その門を吹く風にも像にも秋の声を思うのは正に詩心で、味わいのある秋を思う一句です。

しおさい文芸

選者 桐本石見



清盛の末裔ならむ宮参り

潮騒・豊

この句には季語がありませんし、末裔と云うのも大袈裟なので、例えば次の様に「清盛にあやかり秋の宮参り」とすれば男の子の宮参りを思い、歴史に名を残した武将清盛の厳島神社も彷彿します。

昇るほど黄金色なり望の月

潮騒・豊

月は四季に趣きがありますが、俳句では月と云えば秋で望の月は仲秋の名月を云います。またその月の昇る場所により更に観賞の趣きを異にする。例えば、四国高知の桂浜、千葉の犬吠、利根川、島根の出雲など。この句のは何処だろうか、地名を入れた句にすると景が見えます。

届きたる 書中お見舞い 鮮やかな

サーフィンの青 涼しく映えて

目方より ずしりと重き 師の便り

こころ近づけ 行間を読む

腹底に 沁み入るように カナカナと

短命唄いし 初秋(あき)の蛸

(北海道・章三郎)

今朝秋の獄は静まる免業日

北海道・章三郎

今朝の秋は立秋のことで八月八日頃だが今年は残暑が厳しく秋を思ふのは北海道でも北の方かも、それでも今日は仕事の無い日で獄舎も静かだ、窓からの風にもどこかに秋を思ふ。獄舎だけに余計にしみじみとした句です。

ひとり寝を獄窓から秋が覗き込む 北海道・章三郎

句の作者は一人獄舎で昼寝でもしているのか、ふと目覚めて窓を見上げると秋の日が眩しいくらいだ、それは我が身を覗かれている様でもある。人は身に何か引け目があると、そうでない人は眩しく見えるし、また太陽はその耀き以外に眩しく思う。これも実感の悲哀のこもる一句です。



Information

行事予定 (10月中旬～11月中旬)

- 10月13、14日 NA北関東エリアギャザリング
- 14日 秋元病院メッセージ (20日も)
- 15日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 18日 船橋北病院とのソフトボール交流試合
- 21日 第22回鹿嶋まつり参加 (模擬店出店)
ファイザーP継続助成応募プレゼンテーション
- 25日 秋元病院とのソフトボール交流試合
- 28日 潮騒家族会 (しおさいデイケアセンター)
- 29日 横浜ダルクとのソフトボール交流試合、
入寮者10月誕生会
- 11月3、4日 て～ら祭 (鹿嶋市まちづくり市民センター)
- 11日 潮騒ファイザープロジェクト&開設7周年フォーラム
- 17日 秋元病院メッセージ

献金・献品を頂いた方々 (9月中旬～10月中旬)

- | | |
|----------------|----------|
| ▼献金を戴いた方 | ▼献品を戴いた方 |
| 高橋 ふく子 様 | 高田 武義 様 |
| 守谷 登志 様 | 林 かつ子 様 |
| 内堀 高良 様 | 岩田 けい子様 |
| 橋爪壮、八重子様 | 高橋ふく子 様 |
| 富井建夫様 (菜の花家族会) | |
| 梅島クリニック、和田譲蔵様 | |
| 平田 幸子 様 | |

☆そのほか匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は
全員の方に同封させて頂いております。
どうぞご理解の程をお願いします。

【お願いします!】潮騒JTCでは使わなくなった中古のパソコン、中古の車いす、中古自転車などの献品を求めています。回復活動や日々の生活に必要なので、ご協力ください。

編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター (本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10

TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム (中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱56号

〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16

TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木1113-39

E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

編集後記

実りの秋です。本通信でもお伝えしていますが、潮騒が取り組むファイザープロジェクトの柱となる農業分野で、成果が出始めています。5ページで紹介したように豊作に恵まれた潮騒水田では予想を超える新米 (コシヒカリ) を収穫でき、荒れ地を開墾した潮騒農場では特産のサツマイモが順調に育ち、11月11日の公開フォーラムの際には参加された皆さまに潮騒ブランド? のサツマイモ (紅あずま) をお持ち帰りいただけたと思います。その後はダイコンの収穫を計画しています。昨年、放射性セシウム被害の問題にさらされたシイタケですが、今年は専門機関に持ち込んで検査をしたいと考えています。場合によっては圃場の除染も考えなくてはなりません。頭の痛い問題ですが、少しでも専業農家のつらい思いを共有しながら、ぶつけようのない怒りをパワーに変えてファイザープロジェクトに励み、引き続き潮騒独自の職業訓練・就労支援プログラム開発に力を入れたいと思います。どうか皆さま、ご支援を。(イチ)

発行所 郵便番号一五七—〇〇七三
東京都世田谷区砧六—二六—二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
(会費を含む) 定価一〇〇円

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。